



豆打式では宗像観光協会とタイアップ

3月祭事暦

毎月1・15日 ^{つきなみ} 月次祭

午前10時
高宮祭
第二宮・第三宮祭
引き続き
宗像護国神社
月命日祭(1日)
巡 拜(15日)

午前11時～
総社祭
浦安舞 奉奏(1日)
豊栄舞 奉奏(15日)

4日 氏貞公墓前祭

午前11時～
於=宗像市上八氏貞公墓前
本年は承福寺当番により、仏式で斎行

19日 松尾神社祭

午前11時～
於=境内 松尾神社

23日 皇霊殿遙拜式

午前10時～

節分祭 齋行

～二〇〇人が参集。ふぐ刺し引換券も～

各地で氷点下を記録しこの冬一番の寒さとなった二月三日、恒例の節分祭が祈願殿で斎行され、続いて行われた宗像観光協会とタイアップした豆打式では、福を授かるうとする約一二〇〇人の参拝者が詰め掛け、寒さを感じさせない熱気で賑わった。

本年は土曜日とあって早朝から多くの参拝者が参集、午前十時の祭典時には袴を着装した年男、責任役員、氏子会関係者、谷井博美宗像市長をはじめ、宗像に本拠地を置くプロラグビーチーム福岡サンパース



特設やくらがの豆打式

昨年春と夏の二回に亘り福岡教育大学の先生を始め、宗像植物友の会外による沖ノ島植物植生学術調査が行われ、厳しい環境のなかで自生進化した日本では数少ない原植物相が再確認された。沖ノ島物語実行委員会発行の「海の道」に神野展光教授の報告書連載中。沖ノ島の原生林の重要性は早くから認識されており、大正十五年には国の天然記念物に指定されていることは周知の通りである。また大島中津宮及び奥宮御嶽神社境内のスタジオイ林は生態学的重要保全特別地区指定への学術的提案もなされている。一方神木の榎の木をはじめ老樹が鬱蒼と茂り、神苑のかもしれない清浄な雰囲気にも包まれている辺津宮も多種多様な植生を構成しているが、中でもポウランの群生が大きな特徴である。ポウランは境内の楠木・銀杏・檜柏等の巨木に着生している風蘭の一種で、葉は円柱状線形で何本も放射状に出ているその姿形からその名がついたといわれている。ポウランの群生地として近郊では宗像市の五月松原・遠賀郡岡垣町高倉神社が知られているが、辺津宮のものは他に類例がないくらいで恐らく我が国固有の自生群生地ではないかと言われている。初夏には樹間でひっそりと花をつけ毎年変わらず参拝者を見守る。

(H・T)



神具・装束 結婚式場調度品



福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番
本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)～4番
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



ブルースの選手・関係者、市内保育園児、着物姿もあてやかな女将の会に一般参拝者と祈願殿内は溢れんばかりであった。

定刻通りに祭典は始まり、

祭典後に撒かれる福豆がお祓いされた後、神島宮司が無病息災・延命招福の祝詞を奏上、続いて各代表が玉串を捧げ、今年一年の厄除開運を祈念した。その後、祈願殿正面石舞台で、左右二手に分かれた神職によ

り、追儺の神事「鳴弦の儀」が執り行われ、双方の神職が葦矢・桃矢を携えて、一人は天空に向け、もう一人は地上に向けて矢を三度射て、悪疫邪氣

を祓った。

そして高向権宮司の「鬼は外、福は内」の先導で豆内式が始まると、一同用意された福袋を撒き始めた。

初めての試みとなった宗像



部分祭祭典

観光協会とのタイアップでは、地元宗像の野菜、シーズンを迎えた天然とらふぐの刺身・つまみ鍋、サニックスブルースグッツなどの引換券も豆袋に入れられた。多くの方に

福をとテレビ、新聞をはじめ、チラシも配布され告知も積極的に行われた為、当大社では例年の三倍にあたる三万袋、二四〇キロの福豆を準備した。

前日には特設櫓も設けら



豆打式前の鳴弦の儀

れ、祈願殿前と櫓からの二手から福豆が撒かれ始めると、詰め掛けた参拝者は真つ二つに割れ、歓声を上げながら、撒かれる福豆に向かって必死に手を伸ばしていた。

節分祭

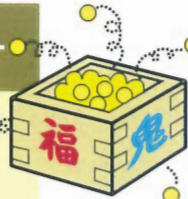
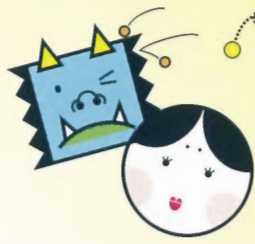
現在「節分」とは立春の前日、太陽暦では二月三日または四日を指すが、本来はそれぞれの季節が終わる日、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指す。

なぜ、立春の前日のみが特に重要とされるのかというと、二十四節気(陰暦の季節区分)の起点、つまり「年の初め」となるからである。そのため、この日に災難消除、悪鬼・邪気を祓う、或いは厄除けのお祓いを受けると、一年間平穩無事であると考えられてきた。

節分につきものの一つに「鬼祓い(追難)」があるが、もとは中国の思想で、鬼は桃を最も嫌っており、百鬼を防ぐには桃しかないと考えられていた。このことは桃太郎の鬼退治が物語っている。室町時代になると、追難の儀式が公家以外の武家や庶民にも広まるようになり、桃にかわって大豆が使われるようになった。

桃から豆へとかわったのは、勿論桃よりも豆の方が庶民に広まりやすかったということもあるが、豆は鬼の目を打つ「魔目(まめ)」や、魔を滅する「摩滅」に通じると考えられたからである。

これが江戸時代になると、春を迎えるための行事として定着していき、豆撒きをすることによって身に降りかかった厄を祓い取り、新たな季節へ向けての準備を整える行事となっていった。



豆打式終了後には、境内の福みくじ授与所、アクシス物産館は引き換えに長蛇の列ができ、厄除を祈る祈願者とともに境内は大変な賑わいを見せた。
来年は日曜日に当たる。今年同様、多くの人々に宗像大社に参拝頂き、宗像大神の「福」を持ち帰って頂くことを希う。



福豆の奉製作業



「女将の会」も加わり華やかになりました。



子供さんコーナーでは保護者も夢中になって...



玄海とらふく

月次祭で奉納

毎月一日の月次祭には、市内の各旅館からの献魚が神前にお供えされていますが、二月一日の月次祭で鐘崎の国民宿舎ひびきさんから、とらふくの奉納がありました。



ふぐは、ふく(福)とも呼ばれ、優しそうな顔をしています。猛な魚でもあり、捕まえて生け簀に入れる際には、共食いを防ぐ為に歯を折るそうです。
当日は、生きた状態で持参いただきましたが、予想通り奉納する際には神職も手を囁まれたようです。

文化財防火デーに伴い 第三十三回 防火訓練を実施

去る、一月二十六日午前九時五十分、火災報知器のベルが正月の賑わいも一段落ついた大社境内に突然鳴り響いた。「第五十三回文化財防火デー

」に合わせ、当大社の自衛消防団、宗像地区消防本部、宗像市消防団第九・十一・十二・十四分団、女性消防団、宗像警察署地元四駐在所合同で、三十



三回目を迎えた防火訓練を実施した。



午前九時五十分、本殿裏の森から出火し、国指定重要文化財の本・拜殿に火勢が迫っているとの想定で開始された。火災を発見した巫女が直ちに火災報知器を押し、社務所に通報。大社自衛消防団は本殿へ急行。巫女並びに宗像市女性消防団によるバケツリレーと施設消火班の神職、管理員、又地元の宗像市消防団第十一分団により放水を行い、無事



最後に神島宮司が防火訓練協力の御礼挨拶を行った。
文化財は国の宝、民族の宝であり、これを火魔より守り後世に伝えていく責

鎮火となった。続いて午前十時、折からの強風にあおられ、祈願殿に延焼拡大したとの想定で訓練が行われた。一九番通報で、宗像地区消防本部・宗像市消防団の各消防車両九台がサイレンを鳴らしながら第一駐車場に集結。素早くそれぞれの配置につき、放水を開始した。約十分後無事鎮火、消火活動を終了した。本番さながらの消火活動に、多くの参拝者が圧倒される面持ちで見入っていた。

消火活動終了後、参加者一同第一駐車場に整列。宗像地区消防本部、宗像市長、宗像市消防団長より講評が行われ、

任は現代に生きる者我々の使命である。当大社でも、昨年六月に沖ノ島祭祀遺跡出土神宝約八万点が一括国宝指定を受けた。又、地域に於いても世界遺産登録に向けた活動が行われており、より一層の防火に対する意識の向上が求められている。

文化財防火デー

昭和二十四年(一九四九)一月二十六日に、世界最古の木造建築である法隆寺(奈良県斑鳩町)の金堂で火災が発生。国民的財産である金堂の内部、貴重な壁画が焼失したことから、文化財保護と防火管理体制の意識を高めるために、この「文化財防火デー」が設けられた。

この日を中心に全国各地の国宝・重要文化財を有する神社・仏閣で防火訓練が行われており、その様子はテレビ・新聞でも報道され強化が図られている。

当大社でも国指定重要文化財の本・拜殿をはじめ、神宝館では多くの国宝・重文を所蔵しており、これら「日本の宝」を守る為、毎年大社職員は勿論、地域をあげて防火訓練を行っている。

建国祭齋行



天候に恵まれ、春を思わせる穏やかな陽気となった二月十一日午前十一時、本殿で我々の誕生を祝う建国祭が厳粛に斎行された。

の座に着座し祭典を開始。神武天皇建国以来の国体護持と皇室・国家、国民の弥栄を祈念して宮司が祝詞を奏上、続いて巫女による浦安舞奉奏、各代表者が玉串拝礼を執り行い、祭典は滞り無く終了した。

今年、昭和四十一年に「建国記念の日」が制定されてから四十一年目となる。「日本書紀」では辛酉の年春一月一日、神武天皇が大和の橿原の地にて即位式を挙げられた日、太陽暦の採用に伴い現在の二月十一日となり「紀元節」として我が国の誕生の日と制定され、大東亜戦争敗戦により廃止される迄、全国



に広がっていた。現在でもこの日には、全国各地で様々な神事や式典等の奉祝行事が行われているが、奉祝反対の集会も目立って行われている。何処の国に於いても国民は誇りを持って国の建国を祝い、文化を継承して行く。日本人はこの「建国記念の日」の意義を各々十分に認識し、世界でも有数の文化・歴史・伝統を持つ我が国を世界に示し、亦、子孫に継承していかなくてはならない。

宗像大社菊花会 新年総会を開催

一月二十八日午前十時より、神湊・魚屋旅館で宗像大社菊花会の新年総会並懇親会が開催された。

当日は一月下旬としては近年にない温暖な天候に恵まれ、九州各地から宗像大社菊花会の会員約七十名が一同に集まり総会は始まった。

前年度の第三十六回大会の反省に、本年の西日本菊花大会の行事日程、九州菊花連盟九州大会の運営等について協議され、今年の方角性が承認された。

総会終了後には菊作り講習会が行われ、今年(社)全日本菊花

連盟理事篠原廣光先生による「巨大輪作りへのアプローチ」と題した勉強会が行われた。

篠原先生は愛媛県出身で、菊栽培歴四十年、過去十回連続内閣総理大臣賞を受賞菊全国大会では、数々の大臣賞を受賞され、大菊作りでは全国トップクラスの制作者とあって会員一同熱心に聞き入っていた。

正午には講習会も終了し、大広間で新春懇親会が行われ、宗像大社菊花会千々和会長からの挨拶の後、宗像観光協会吉武会長の発声により乾杯が行われ懇親会は始まった。一同玄海の海の幸を充分堪能しながら、今年の第三十七回大会への更なる意気込みと、十一月の再会を誓い午後三時終了した。

宗像大社菊花会 新年総会



篠原先生をお迎えしての勉強会

尚、今年第三十七回西日本菊花大会は十一月十三日で開催されます。



新年総会

「沖ノ島と関連遺産群」

世界遺産暫定リスト候補地として継続審議

宗像市役所
秘書課

宗像市では、「沖ノ島と関連遺産群」を世界遺産(文化遺産)として登録するための活動に取り組んでおります。「沖ノ島と関連遺産群」は、大和王権及び律

令国家が、四世紀から十世紀に、東アジア世界と交流する中で、航海の安全を神に祈願して国家的祭祀を行った沖ノ島と、それを支えていた豪族胸形氏に関連する

遺産群です。

世界遺産へ登録するためには、まず日本国内の世界遺産暫定リストに掲載されることが必要となります。文化遺産については、文化庁が各自治体からの提案書を審査して、暫定リストの追加物件を選定することになりました。宗像市では、福津市・福岡県と合同で、文化庁が指定する「世界文化遺産国内暫定一覧表追加提案書」を昨年十一月二十三日に文化庁へ提出しました。文化庁では、全国から提出された二十四件の提案書について、選考委員会を設置して審査を行い、本年一月二十三日に選考結果を発表しました。今回暫定リストに掲載されたのは、富士山など四件で、本市が提案した「沖ノ島と関連遺産群」を含む二十件は、継続審議となりました。継続審議となった二十件には、それぞれ解決すべき課題が与えられ、その課題を解決すれば暫定リストへ掲載が可能である



世界遺産を目指す神の島「沖ノ島」

写真提供=NHKエンタープライズ

るといことです。

「沖ノ島と関連遺産群」への課題

- ① 主題Ⅱ海洋文化と祭祀権との関係を総合的に捉え、祭神を招き祀った他の神社との関連性も視野に入れた検討が必要
- ② 資産構成Ⅱ胸形氏に関連する一連の諸要素を特定し、構成資産とすべき古墳群の範囲が適切か検討が必要
- ③ 登録基準の妥当性Ⅱ提案書説明のうち、歴史上の重要な段階を物語る観点から、構成資産の正確な評価記述が必要

の三つです。「沖ノ島と関連遺産群」へ与えられた課題は、他の地域の課題と比較しても、それほど難しいものではないと考えられます。これからは、専門

の三つです。「沖ノ島と関連遺産群」へ与えられた課題は、他の地域の課題と比較しても、それほど難しいものではないと考えられます。これからは、専門



会見する宗像・福津市長に両市の文化財担当者



宗像市ホームページ <http://www.city.munakata.lg.jp>

家の意見を聞き、この課題を十分精査・分析して、県・福津市と連携を取りながら、課題解決への取り組みを行ってまいります。一日でも早く課題を解決して、暫定リストへ追加掲載されることを目指してまいります。市民のみなさんの協力がなくては、課題解決はできません。みなさんの一層のご理解とご協力をお願いします。尚、文化庁へ提出した提案書は、左記の宗像市のホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。



福岡市唐泊付近

筑前志摩・唐泊の伊勢丸は、明和元年(一七六四)に仙台領・箒浦を出帆して江戸へ向かった。ところが海が荒れ風や浪に翻弄され、舵が折れ、帆柱を切り倒し、積荷を半分以上をはねすて、船の舳先に錨二本をさげて漂っていた。その後も補修した舵も折れ、船具も破損がつづき、波まかせ、

(続)

浜の寄物

212

いしいただし



風まかせの漂流が続く。次第に食糧も水も不足してきて、不安も一層募る。「水乏しければ、俄雨の降るごとに器皿をあつめ貯へをき、僅かに濁をうるおす迄にて、他の用には一滴も費さざるやうに示しあい：「また一日にても生延ん覚悟肝用なりとて、水一斗に米二升を入れ粥とし、二十一人

日の食とす。さて比洋中に鱈(サメ)猫面(しいら又名くまびき)種々の巧思を以て釣たるに、其中四尋(一尋は五尺一・五二五也)に及鱈なども釣りければ、比食物の助けを得たり(南海紀聞抄録)。もう少し具体的に記すと、大きな一疋が舵の当たりに近付きまわるので、これを釣つて喰おうと、米積かぎにヒモを付け雪駄の裏皮引はなして餌とし投げ入れたところか、鱈が食いつき、これを三、四人で引きあげようとすると、食も乏しく、力も出ずに疲れてい

るので、引いても引いてもあがらず、海に引き込まれそうにもなつたが、一同精を蓋して巻戸にかけて、やつと釣りあげた。四尋ばかりの大鱈だった。脇差を抜き、なぎなた(長刀)をとぎ、手に手にもつて解体しそれを味噌に煮て喰い、また焼きて喰い、この肉のお陰で飢えを凌いだりした。漂流することおよそ百余日をへて、島にたどりつくが、樹木におおわれ、上陸地を見出せず、島を離れて漂っていたら、再び大きな島があり、砂浜があるところに上陸する。浜を見巡るが、人畜の跡もなく、村らしいものがない。処々に樹木があり実を拾つて食べたたり、二尺計りのナマコを数多く採つたり、生えている蕃薯のような葉などを味噌汁やあえものにして食したりする。毒分があつて悩まされるが死にはいたらなかった。数日後家の如きものを見て、大いに歓喜して船を近づける。上陸のため各々衣服を改え、砂浜に上がった

が疲労困憊し、皆一所に集まり「只茫然としていた」。しばらくして異形の人百人ばかり、鳥銃、吹筒、槍、防牌(盾)等を持ち立並ぶ。その中より十四五人進み来て、何か言っているけれど通じない。砂の上に日本と書いても分からなかった。その風貌は「面色黝黒、被髪(髪を結束せず解き乱してある)して身に短衫を着たり、

其製吹貫を見るが如し、或は裸体なるもありて孰れも跣足なり」「一同に之を見るより、おそれわななきて、生たる心地はなくてありし」。彼等は浜辺につないでいる舟に入り、衣類諸道具ごとごとく掠め取りて立去つていった。夕方になり、集まつていたものも帰つていた。「あとは磯打つ波の音の身にしてみても、此世とは更におもはれざれば、唯茫然としてたたずめり」(日本漂流譚)



舟の多見住民にかこみられた。

宗像大社 春まつりの御案内

春の大祭を左記行事日程で肅行致しますので、皆様方お誘いの上御参拝下さいますようご案内申し上げます。

三月三十一日(土) 午後五時 総社地主祭

午後六時 宵宮祭

四月 一日(日) 午前十一時 大祭

(氏子奉幣・主基地方風俗舞・浦安舞) 総社祭(献上若布採取者表彰)

交通安全講話

午前十一時四十分

宗像護国神社

高宮祭

第二宮・大三宮祭

午後二時 献茶祭(南坊流小方社中)

第五四七回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

宗像市 大島 杉田 禮子

エンジンの首軽やかに響きくる朝焼けの浜にしほし佇む
正月のとある朝の風景が描写されているが、四五句を倒置し「しほし佇む朝焼けの浜」として、佇んだ時間を出す法もある。

宗像市 田野 森 甲子

明暗を写す相撲の花道を天うち仰ぐ高見盛閑
勝った時の高見盛の姿。ただ二句は「見せる」、結句は「高見盛は」とする。

宗像市 池田 森 龍子

新玉の川面に映る岸辺の草乱れぬ影に小石の光る
「新玉のとすると、年、月、春にかかる枕詞なので、上句は「あらたまの年の川面は草映り」とやわらかく詠うことにより、新年を寿ぐ気持がはつきりと出る。

福津市 中央 池浦 千鶴子

紫蘇の穂の未枯れたるまま立ちたるに抜けば青草より今も香ぐはし
語順が悪いため折角の風景が生きない。上句を「未枯れたるまま」に立ちたる紫蘇の穂を」と順直に敘す。

福津市 星ヶ丘 佐々木 和彦

ただひとり椿の花を観にきたる島の波止場に猫たむろせり
「ただひとり」にこめられたアンニュイ感を引き立てているのが下句の具体的描写である。うまい。

北九州市 八幡西区 吉田 ウト子

葦に似る小草は葦に混じり立ち風吹けば揺るる後れずに揺るる
葦のリフレイン、揺るるのリフレインが快く、小草の可憐なさまを活写している。

福岡市 南区 井田 有久衣

しみじみと夫の遺影に語りかく「貴方はいいね」老いる事なく
素直に心情を述べた老いの恋うたである。

福津市 若木台 野間 精一

寒に入り裸となりし大銀杏ダムの岸辺に白光を放つ
「白光を放つ」と詠った作者の気迫は立派で異彩である。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子

友へおくる病氣平癒のお守りを受けたる巫女の笑顔やさしき
優しいところが見える歌。ただ「受けたる」は連体形なので「巫女」という体言にかかるので意味が混乱する。「受けたり」と終止形にする。

宗像市 日の里 大和 美由紀

燦燦と額に日差しふりそそぐ十日戎の列に並びぬ
気持の通った歌である。ただ初句の「燦々」が常套的なのが惜しい。

宗像市 田久 巻 桔梗

詠みなやみウツなる日にはみ社の横の茶店で「幸福餅」くふ
鬱をさえ忘れさせてくれる食べることの素晴らしさ、大切さを示した一首。

北九州市 戸畑区 田中 ハツセ

脳の中MRIの血管は糸人形の踊るが如し
MRIで初めて見た自分の脳驚きのさまが下句の比喻でうまく現されている。

うきは市 浮羽町 向 則正

元旦の膳をかこむは夫婦だけつましく消せ賀状待ちをり
つましくとも元気で二人で迎える正月は大切な時間である。

宗像市 光岡 森田 富佐子

新年にそぼ降る雨が空しくて初夢に似て忘れる様に
上句には寂寥感があるが、下句が判らない。一人よがりの表現にならぬよう気を付けて欲しい。

くれなるの花びら散れる寺庭の
大山茶花に年逝かむとす

正月の季のみ花を挿し飾る
作者無銘の小鹿田の大壺

一つづつ辞書にたしかめ歌を書く

語彙まだ忘れぬことを良しとし



第五二二回 俳句作品集

宗像市 花田 いつ枝
大熊手抱くや幸運来たること

編集後記

紙面にふぐが載っています。そして、ふぐに噛まれたのは：小生です。背中模様があやしい妖気を発していました。姿形がかわいくみえた為、優しく血に盛ろうと掴んだその瞬間、ガツと噛まれました。少し血が滲む程度でしたが、山国育ちの小生ふぐに裏切られた気分でした。献上された方は「言つとらみかたねえ」でした：▼で、調べてみました。このふぐは県内単一漁港としては一番の水揚げを誇る「鐘崎」の漁師さんが獲ったもので、その漁協の権田さん(鐘崎は権田さんばかりです)に話を伺いました▼とらふぐは雑食性で歯(キバ)と言っていました。鋭く、獲つて直ぐにキバを折るそうです。そうしないと船の生け簀で傷付け合う、或いは共食いまで始めるほど猛々とおまけに人間の指をちぎる程力も強いとのことでした▼ちなみに、現在でも鐘崎で獲るとらふぐの90%が下関に(残りは博多)水揚げされ、玄海とらふぐとして地元で水揚げされるのは、わずか1%だけだそうです▼今月は、当大社海洋神事奉賛会(宗像・鐘崎・津屋崎漁協で構成)が、四十数年毎年行っている皇室への若布の献上もありますが、一足早く先の下関漁協もとらふぐを献上しています。しかし下関の天然とらふぐの内、鐘崎ふぐ船団の水揚げしたものがかなりのウエイトを占めているとのことでした▼先月三十路を迎え、何でも分かったような顔をしています。が、まだまだ知らないことが、ここ宗像には沢山あります。(M.O.)

発行所 宗像大社社務所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
電話 0940-62-1311(代)
発行人 高向正秀
編集人 大塚宗延
制作 セネラルアサヒ
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共 1,000円